



株式会社荏原製作所

2024 年 12 月期 通期決算説明会

2025 年 2 月 14 日

イベント概要

[企業名]	株式会社荏原製作所
[企業 ID]	6361
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 12 月期 通期決算説明会
[決算期]	2024 年度 通期
[日程]	2025 年 2 月 14 日
[時間]	17:30 – 19:11 (合計：101 分、登壇：39 分、質疑応答：62 分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	8 名 取締役 代表執行役社長 兼 CEO 兼 COO 浅見 正男 (以下、浅見) 執行役 建築・産業カンパニープレジデント 永田 修 (以下、永田) 執行役 エネルギーカンパニープレジデント 宮木 貴延 (以下、宮木) 執行役 インフラカンパニープレジデント 太田 晃志 (以下、太田) 執行役 環境カンパニープレジデント 山田 秀喜 (以下、山田) 執行役 精密・電子カンパニープレジデント 南部 勇雄 (以下、南部) 執行役 CFO 細田 修吾 (以下、細田)

IR・広報統括部長

落合 恒毅（以下、落合）



2024年12月期 決算説明会資料 荏原 (6361)

2025年2月14日

Looking ahead,
going beyond expectations
Ahead > Beyond

株式会社 荏原製作所

落合：お待たせいたしました。本日はご多用のところ、株式会社荏原製作所 2024 年 12 月期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより会を始めさせていただきます。本日の 15 時 30 分に決算関連の書類を東証のプラットフォーム並びに当社ホームページに開示しております。そちらもご覧いただきながらご参加くださいますようお願い申し上げます。私どもの出席者をご紹介します。代表執行役社長、浅見正男でございます。

浅見：浅見です。よろしくお願いいたします。

落合：建築・産業カンパニープレジデント、永田修でございます。

永田：永田です。よろしくお願いいたします。

落合：エネルギーカンパニープレジデント、宮木貴延でございます。

宮木：宮木です。よろしくお願いいたします。

落合：インフラカンパニープレジデント、太田晃志でございます。

太田：太田です。よろしくお願いいたします。

落合：環境カンパニープレジデント、山田秀喜でございます。

山田：山田です。よろしくお願いいたします。

落合：精密・電子カンパニープレジデント、南部勇雄でございます。

南部：南部です。よろしくお願いいたします。

落合：CFO、細田修吾、IR 担当執行役でございます。

細田：細田です。よろしくお願いいたします。

落合：司会は、IR・広報統括部、落合が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

目次



当決算におけるポイント	P3	4.中期経営計画「E-Plan2025」の進捗	P21
1. FY24 連結決算サマリ		5. 補足資料	
・連結業績	P5	・連結業績予想	P31
・セグメント別	P6	・受注高	P32
・営業利益増減分析	P7	・売上収益	P33
・地域別売上収益	P8	・営業利益	P34
2. FY24 セグメント別業績		・受注残高	P35
・建築・産業	P10	・地域別売上収益	P36
・エネルギー	P11	・サービス&サポート(S&S)売上収益	P37
・インフラ	P12	・貸借対照表	P38
・環境	P13	・キャッシュ・フロー	P39
・精密・電子	P14	・資本的支出、減価償却費、研究開発費	P40
3. FY25 業績予想		・ESG Topics	P41
・連結業績	P17		
・セグメント別	P18		
・営業利益増減分析	P19		
・株主還元	P20		

- 略語の説明
 - ・ FY：会計年度（例「FY24」は2024年12月期会計年度）
 - ・ 「1Q」は第1四半期の数値、「1-2Q」、「1-3Q」、「1-4Q」はそれぞれ第1四半期から各四半期末までの累計値であることを示している
- 本資料で示す財務数値はIFRSベースで記載している

本日のスケジュールでございますが、決算概要を CFO の細田より、続けて、今期の見通しを社長の浅見より説明させていただきます。その後に、皆様からのご質問をお受けいたします。終了時刻は 19 時を予定しております。それでは、細田より説明に入らせていただきます。

FY24 業績

	実績	前期比	前回計画比*
受注高	8,605 億円	+399 億円 +4.9% →	-44 億円 -0.5% →
売上収益	8,666 億円	+1,073 億円 +14.1% ↗	+246 億円 +2.9% →
営業利益	979 億円	+119 億円 +13.9% ↗	+109 億円 +12.6% ↗
営業利益率	11.3%	-	+1.0pts

↗は+5%以上、↘は-5%以上の変化、→は変化が±5%未満

FY25 通期業績予想

	今回計画	前期比
受注高	9,400 億円	+794 億円 +9.2% ↗
売上収益	9,000 億円	+333 億円 +3.8% →
営業利益	1,015 億円	+35 億円 +3.6% →
営業利益率	11.3%	-

* 2024年11月14日公表の計画値

ポイント

FY24 業績

- 受注高、売上収益、営業利益はいずれも4期連続で過去最高を更新
- 建築・産業のトルコの子会社Vansan社に係るのれんの減損損失を計上したものの、精密・電子、エネルギーの増益により、全社の営業利益率は前期と同水準の11.3%を達成

FY25 業績予想

- FY25は、受注高、売上収益、営業利益で5期連続の過去最高を目指す
- 営業利益率は、E-Plan2025期間の投資による減価償却費等、競争力強化のための固定費増加を見込むが、建築・産業の改善もあり、前期と同水準となる見込み

配当金 予想

- FY24の1株当たり年間配当金を、前回予定46円から55円（中間23円、期末32円）へ引き上げ
- FY25の1株当たり年間配当金は56円（中間28円、期末28円）を計画

3 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

細田：皆さん、こんばんは。IR 担当執行役の細田でございます。いつも当社に関心をお寄せくださりまして、ありがとうございます。まず、今回の決算におけるポイント、本決算を通じて皆様にお伝えしたいメッセージは、2点に集約されると思っております。

まず1点目としましては、2024年度連結会計年度の業績ですが、受注、売上収益、営業利益から当期利益まで、全て前期比プラスであったとともに、通期決算としては過去最高業績を更新する、概して好調な決算であったというのが全体観でございます。

昨年度2024年度は、3年計画の中期経営計画 E-Plan2025 の2年目の年であり、3年計画の2年目までの進捗という観点におきましても、比較的順調に推移した年度でした。以上が1点目です。

2点目に関しましては、グループ全体として業績成長が持続的に維持できているということです。前回の3Q決算でもご説明しましたが、建築・産業セグメントにおけるトルコのVansan社、M&Aで買収してグループ入りした会社ですが、のれんに係る減損損失を最終的には70億円計上しました。あとは精密・電子セグメントにおいて、市場回復が想定より少し遅れるなど、セグメント別には多少のネガティブ因子も散見される一方で、エネルギーセグメントをはじめとする他のセグメントが上振れするなどの効果がございました。

複数のセグメント間が互いに補完し合うという意味でうまく歯車がかみ合っていて、グループ全体としては、今回の決算では4期連続の過去最高業績の更新になっております。そういう意味で、業績成長が持続的になっていることが2点目のポイントだと思っております。

以上のような 2024 年度の着地点を踏まえまして、2025 年度の業績予想につきましても、スライド右側に書いておりますが、引き続き前年を上回るような業績水準を目指してまいりたいと考えております。

引き続き将来に向けた成長投資、基盤投資をしっかりと行いつつも、単年度業績としても、前年度よりもさらに良い業績目標を目指したいと考えております。営業利益につきましては、当社グループとしては初めての 1,000 億円台を今期の目標としたいと考えております。

なお、株主還元につきましては、配当性向 35%以上という方針はかねてから掲げてきておりますが、その方針に基づきまして、業績に連動して 2024 年度の 1 株当たり年間配当を、直近開示の 46 円から 55 円に引き上げることにいたしました。また 2025 年度につきましては 2024 年から 1 円増配としまして、年間で 1 株当たり 56 円という配当の予想をしております。以上が今回の決算の概要でございます。



1. FY24 1-4Q 連結決算サマリ

2. FY24 1-4Q セグメント別業績

3. FY25 業績予想

4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗

5. 補足資料

続きまして、決算の詳細説明に入りたいと思います。

1. FY24 1-4Q 連結決算サマリ
連結業績



(単位：億円)	FY23 1-4Q 実績	FY24 1-4Q 実績	増減	増減率	FY24 1-4Q 計画 24/11/14	増減	増減率
	a	b	b-a	(b-a)/a	c	b-c	(b-c)/c
受注高	8,205	8,605	+399	+4.9%	8,650	-44	-0.5%
売上収益	7,593	8,666	+1,073	+14.1%	8,420	+246	+2.9%
営業利益	860	979	+119	+13.9%	870	+109	+12.6%
営業利益率	11.3%	11.3%	-		10.3%	+1.0pts	
親会社の所有者に帰属する当期利益	602	714	+111	+18.4%	608	+106	+17.4%
EPS (円) *1	130.73	154.62	+23.89	+18.3%	131.67	22.95	+17.4%
ROIC	12.2%	12.2%	-		11.0%	+1.2pts	
ROE	15.7%	15.6%	-0.1pts		14.2%	+1.4pts	
為替レート*2							
対米ドル (円)	140.50	151.41	+10.91		140.00	+11.41	
対ユーロ (円)	151.90	163.80	+11.90		150.00	+13.80	
対人民元 (円)	19.83	21.04	+1.21		19.50	+1.54	

*1 2024年7月1日に1株を5株とする株式分割を実施。記載は株式分割後ベースに調整した数値

*2 為替レートは各四半期における期中平均レートを単純平均で表記

5 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

5 ページ目をご覧ください。2024 年の通期の連結業績でございます。

プラス、マイナスを前年対比でご説明します。受注は前年対比 399 億円増加して 8,605 億円、売上は 1,073 億円増加して 8,666 億円、営業利益は 119 億円増加して 979 億円、営業利益率は 11.3%と 2023 年度と同水準となっております。親会社の所有者に帰属する当期利益は、111 億円増加して 714 億円で着地しております。

スライドの右側に示しましたとおり、昨年 11 月に対外公表した計画値に対しての着地点の評価は、受注はほぼ横ばいで、その他の各項目に関しましては上回る数値となっております。

期中平均為替レートにつきましては、各主要通貨において前期比で円安となっておりますが、為替による営業利益への影響額は、前期と比較して 43 億円、つまり営業利益の増加 119 億円のうち 43 億円程度が為替の影響と分析しております。

1. FY24 1-4Q 連結決算サマリ セグメント別



(単位: 億円)		FY23 1-4Q 実績	FY24 1-4Q 実績	増減	増減率	FY24 1-4Q 計画 24/11/14	増減	増減率
		a	b	b-a	(b-a)/a	c	b-c	(b-c)/c
連結合計	受注高	8,205	8,605	+399	+4.9%	8,650	-44	-0.5%
	売上収益	7,593	8,666	+1,073	+14.1%	8,420	+246	+2.9%
	営業利益	860	979	+119	+13.9%	870	+109	+12.6%
	営業利益率	11.3%	11.3%	-		10.3%	+1.0pts	
建築・産業	受注高	2,213	2,444	+230	+10.4%	2,400	+44	+1.8%
	売上収益	2,221	2,381	+160	+7.2%	2,400	-18	-0.8%
	営業利益	157	103	-53	-34.3%	105	-1	-1.5%
	営業利益率	7.1%	4.3%	-2.8pts		4.4%	-0.1pts	
エネルギー	受注高	2,227	2,227	-0	-0.0%	2,100	+127	+6.1%
	売上収益	1,672	2,104	+432	+25.8%	2,000	+104	+5.2%
	営業利益	223	280	+56	+25.3%	240	+40	+16.7%
	営業利益率	13.4%	13.3%	-0.1pts		12.0%	+1.3pts	
インフラ	受注高	566	605	+39	+6.9%	600	+5	+0.9%
	売上収益	501	511	+9	+1.9%	510	+1	+0.2%
	営業利益	46	36	-9	-19.7%	40	-3	-7.6%
	営業利益率	9.2%	7.2%	-2.0pts		7.8%	-0.6pts	
環境	受注高	1,008	715	-292	-29.0%	740	-24	-3.3%
	売上収益	715	874	+158	+22.2%	850	+24	+2.9%
	営業利益	69	84	+15	+21.8%	70	+14	+20.6%
	営業利益率	9.7%	9.7%	-		8.2%	+1.5pts	
精密・電子	受注高	2,177	2,600	+422	+19.4%	2,800	-199	-7.1%
	売上収益	2,469	2,783	+313	+12.7%	2,650	+133	+5.0%
	営業利益	382	501	+118	+30.9%	450	+51	+11.4%
	営業利益率	15.5%	18.0%	+2.5pts		17.0%	+1.0pts	
その他、調整	受注高	11	12	+0		10	+2	
	売上収益	11	11	-0		10	+1	
	営業利益	-18	-26	-7		-35	+8	
	営業利益率	-156.9%	-239.5%	-82.6pts		-350.0%	+110.5pts	

6 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

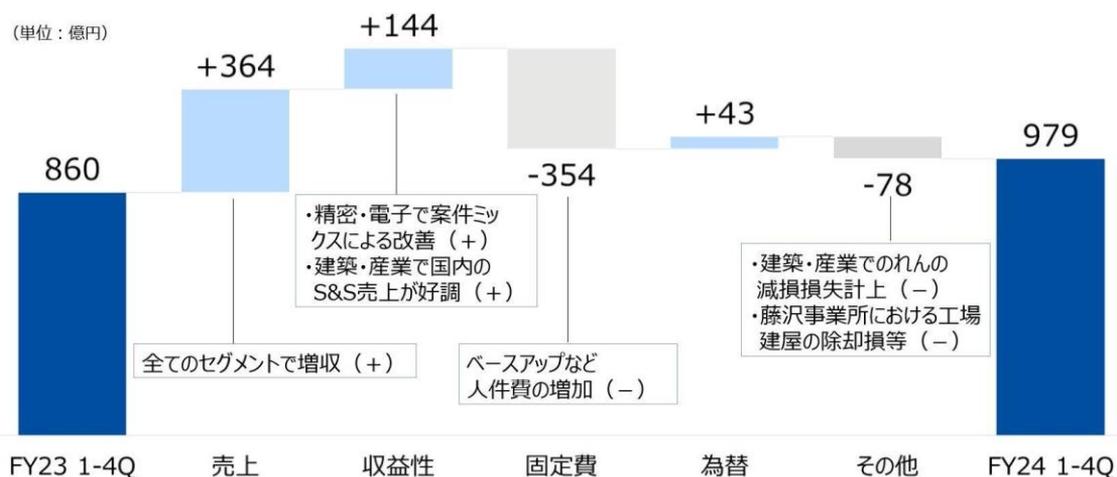
6 ページ目をご覧ください。セグメント別の決算のサマリでございます。

受注につきましては、精密・電子セグメントが、生成 AI 向け需要による市場の回復もありまして、期初の計画比未達ではあるものの前期比では大きく増加しました。それ以外にも建築・産業セグメントが国内、海外とも堅調に推移して増加。インフラセグメントは、国内公共向けが堅調に推移して増加しました。

一方で、環境セグメントは、大型案件の金額規模が前期を下回ったことにより、受注は減少となっております。グループ全体としては 399 億円の増加という受注の状況です。

売上につきましては、全セグメントが前年度と比べて増収となっております。全体として 1,073 億円の増加となっております。営業利益につきましては前期比 119 億円増加で、その増減要因が次のページのウォーターフォールチャートに記載されています。

増収や収益性の改善が固定費の増加を上回り増益



7 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

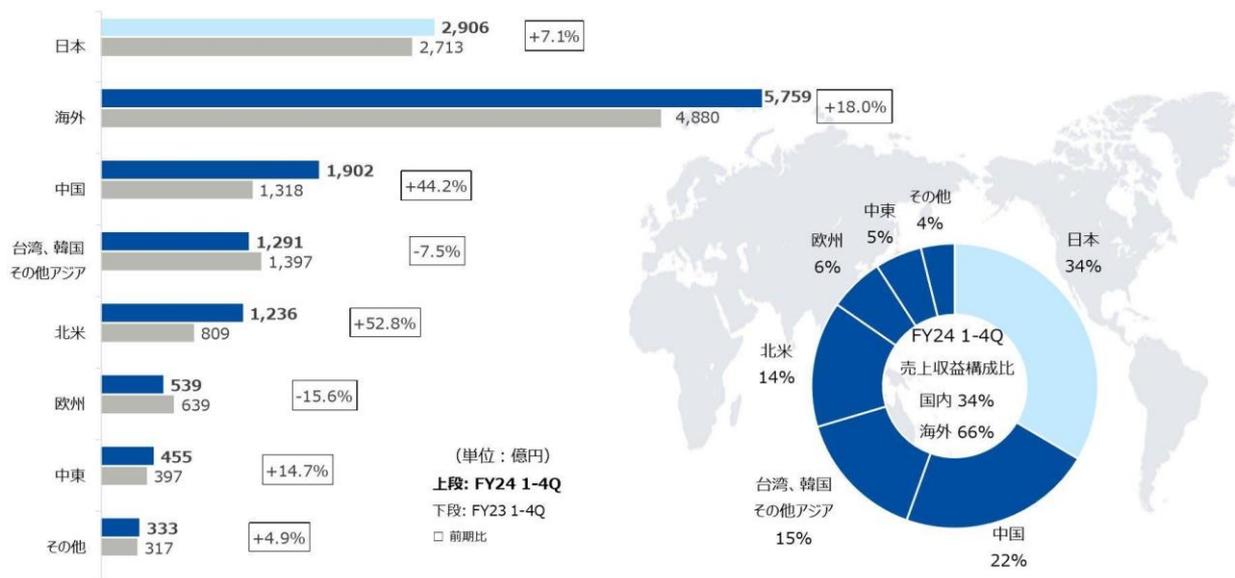
こちらに示しましたのは、営業利益に関する前期からの利益増減分析でございます。

営業利益は前期から 119 億円、860 億円から 979 億円に増加しております。その内訳としましては、売上要因として全てのセグメントが増収となった結果として、364 億円の増加となっております。

一方、収益性要因につきましては、主に精密・電子セグメントと建築・産業セグメントがけん引し、収益性が改善しまして 144 億円のプラスとなっております。この場合の建築・産業セグメントの中には、Vansan 社に係るのれんの減損損失は入れておらず、減損損失を除く建築・産業の収益性の改善という意味でございます。

固定費につきましては、ベースアップなどの人件費の増加を中心に 354 億円のマイナス要因となっております。さらに円安による為替の要因が 43 億円分のプラス、その他の項目として建築・産業セグメントののれんの減損損失 70 億円、その他がございまして、結果的に 979 億円という営業利益で着地しております。

地域別売上収益



※「地域別売上収益」は売上先所在地別売上収益を示す
 8 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

8 ページ目は、地域別売上収益の説明でございます。

海外売上構成比率が年々多くなってきておりますが、右側の円グラフにありますとおり 66%、ほぼ 3 分の 2 が海外からの売上という構造になっております。

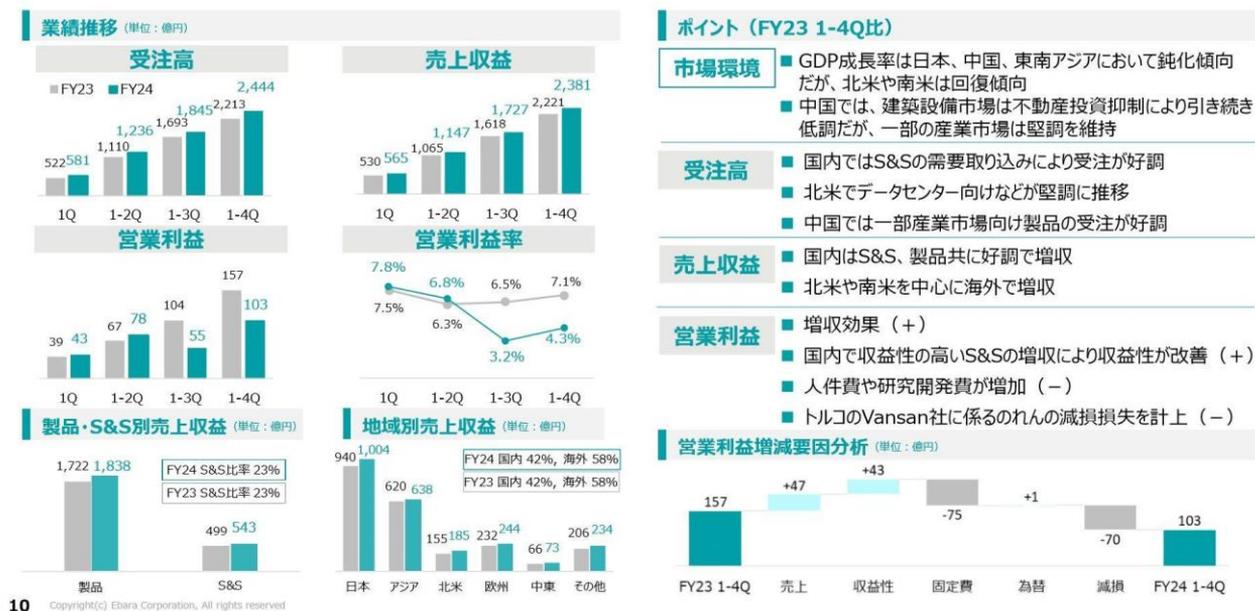
左の棒グラフは、上段が 2024 年度、下段が 2023 年度の売上です。2024 年はご覧のとおり、国内、海外とも伸びております。特に海外の伸びが大きいです。国内は、主に建築・産業セグメントと環境セグメントの売上の増加によるものでございます。海外は地域別で見いただきますと、前期比で伸びが大きいの北米と中国でございます。一方で減少幅が大きいののは、欧州、台湾や韓国を含むその他アジアでございます。北米の増加はエネルギーセグメント、中国やその他アジアは精密・電子セグメントの売上動向が大きく影響した結果でございます。

- 1. FY24 1-4Q 連結決算サマリ
- 2. FY24 1-4Q セグメント別業績
- 3. FY25 業績予想
- 4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗
- 5. 補足資料

続きまして、セグメント別の業績の説明に入ります。

2. FY24 1-4Q セグメント別業績

建築・産業



10 ページ目です。まず建築・産業セグメントでございませう。

受注、売上は前期比で増加しましたが、営業利益はのれんの減損損失の影響で前期比減少でございませう。市場環境の全体観ですが、GDP 成長については日本、中国、東南アジア等では鈍化傾向でございませうが、北米や南米は回復傾向にあります。そのような中で、受注の増加要因として

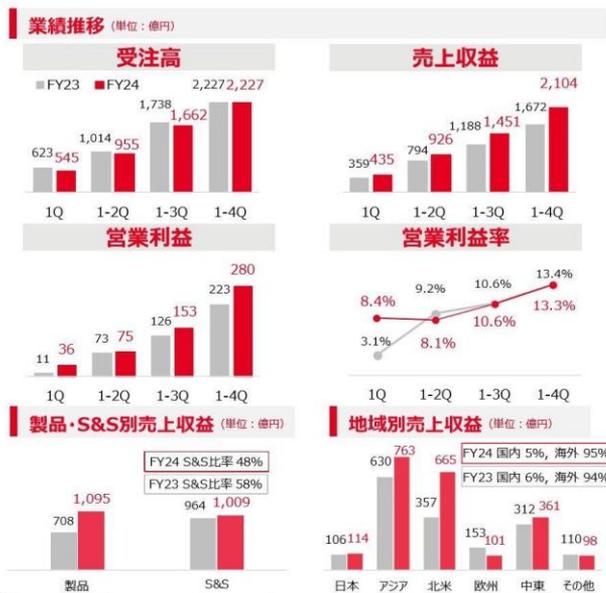
は、国内におきましてはポンプや冷熱製品のサービス&サポート需要の取り込みにより増加となっているのが主な要因です。

一方、海外におきましては、北米においてデータセンター向けのポンプなどが堅調に推移した結果でございます。また中国において、半導体および電子産業を含む一部の産業市場向けで、省エネ製品への需要の高まりがありました。建築・産業セグメントにおいては、引き続き中国の市場も堅調に推移しています。

売上に関しましては、国内では受注と同様にサービス&サポート、製品ともに好調で増収となっており、海外では北米や南米を中心に増収となっております。営業利益に関しましては、増収による営業利益の増加に加えまして、特に国内におきまして収益性の高いサービス&サポートによる売上が増加したことが、収益性改善による営業利益増加に寄与しております。

一方で、人件費などの固定費の増加や、Vansan 社に係るのれん減損損失の計上が増減要因です。のれんの減損損失に関しては、3Q では 64 億円を計上しておりますが、その後、3Q 末から 4Q 末にかけてのインフレの進捗および為替レートの変化等がございまして、最終的には年間で 70 億円の減損損失を計上して着地しております。

2. FY24 1-4Q セグメント別業績 エネルギー



11 ページ目は、エネルギーセグメントでございます。

受注は、高水準ではありますが前期並みです。売上、営業利益は、前期よりも増加している状況です。全般的な市場環境ですが、オイル&ガスのダウンストリーム市場の石油化学案件につきまして

は、北米、アジア、中東などで動きが見られました。一方で、北米の LNG 市場は、市場環境に大きな変化はないものの、大統領選の結果を見据えて、投資判断を最終的に待つという政治的要因等によりまして、お客様の投資判断にタイミングのずれが見られています。投資判断は大統領選が終わってから、もしくは今期に期ずれをしているという状況です。

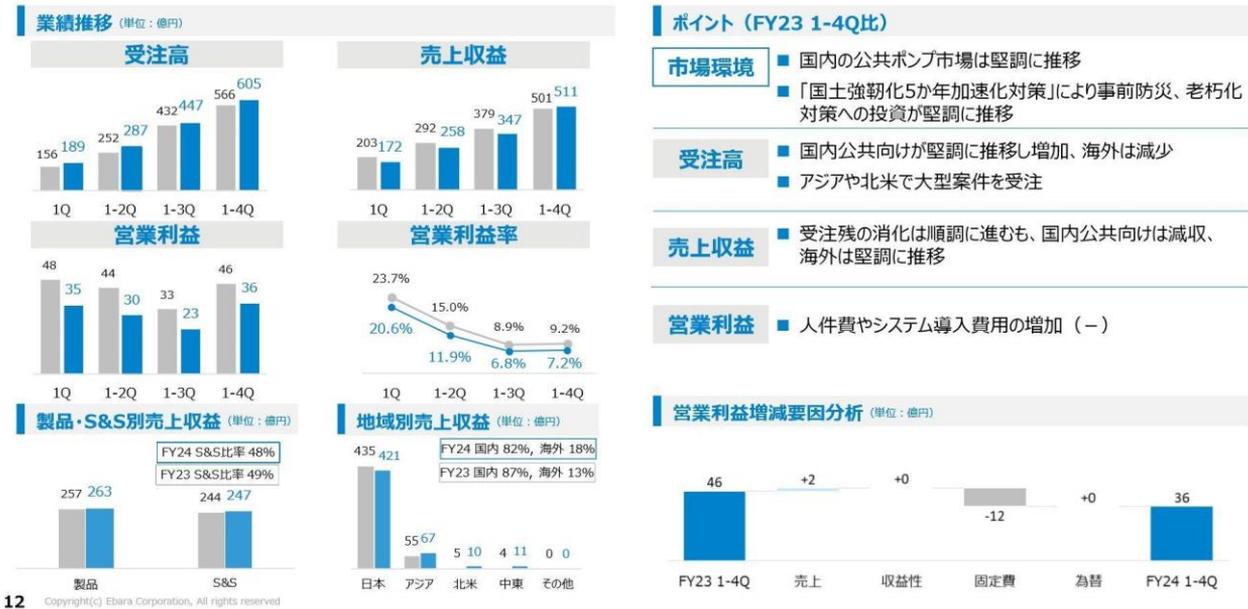
当社の受注は製品については、北米で一部案件が 2025 年に期ずれとなり、LNG 向けの大型案件を複数受注した前期比では減少となりました。その一方で、中国の電力向けなど、他の地域は比較的堅調で、製品全体としては横ばいという状況です。

一方、サービス&サポートの受注につきましては、期初想定以上に既設製品の改造案件が増加して大幅な増加となりました。

売上に関しましては、昨年の LNG 案件を中心とした製品受注が好調で、北米向けに大きく増加したのが製品の売上です。サービス&サポートの売上は、アジアを中心に増加しましたが、それ以上に製品売上が増加したため、サービス&サポート比率としては低下しました。

営業利益につきましては、固定費の増加はありましたものの、増収効果によって全体として増益となったのがエネルギーセグメントでございます。

2. FY24 1-4Q セグメント別業績 インフラ



12 ページ目のインフラセグメントです。

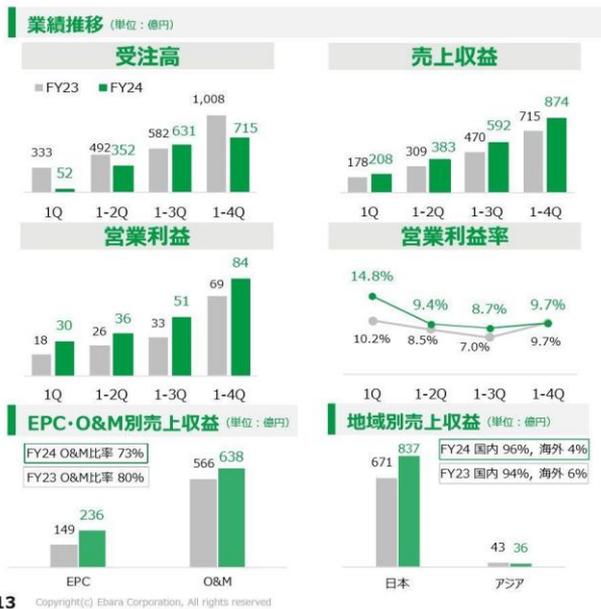
受注、売上は、前期比で増加しましたが、営業利益は減少しました。増収減益です。国土強靱化 5 か年加速化対策の 4 年目が 2024 年であり、ポンプ設備の更新、補修に対する需要が堅調に推移し

たのが国内の受注です。5 年加速化対策の中長期目標の一つである排水機場の遠隔監視機能の整備が進み、関連する遠隔監視案件を複数受注したのが昨年度でした。

海外は、全体としては減少したもののアジアや北米で大型案件を受注しております。売上は受注残の消化が順調に進みましたが、国内向けが減収、海外は堅調に推移して全体では前期を上回りました。

営業利益は、固定費の増加等により前期比で減益となっております。以上がインフラセグメントでございました。

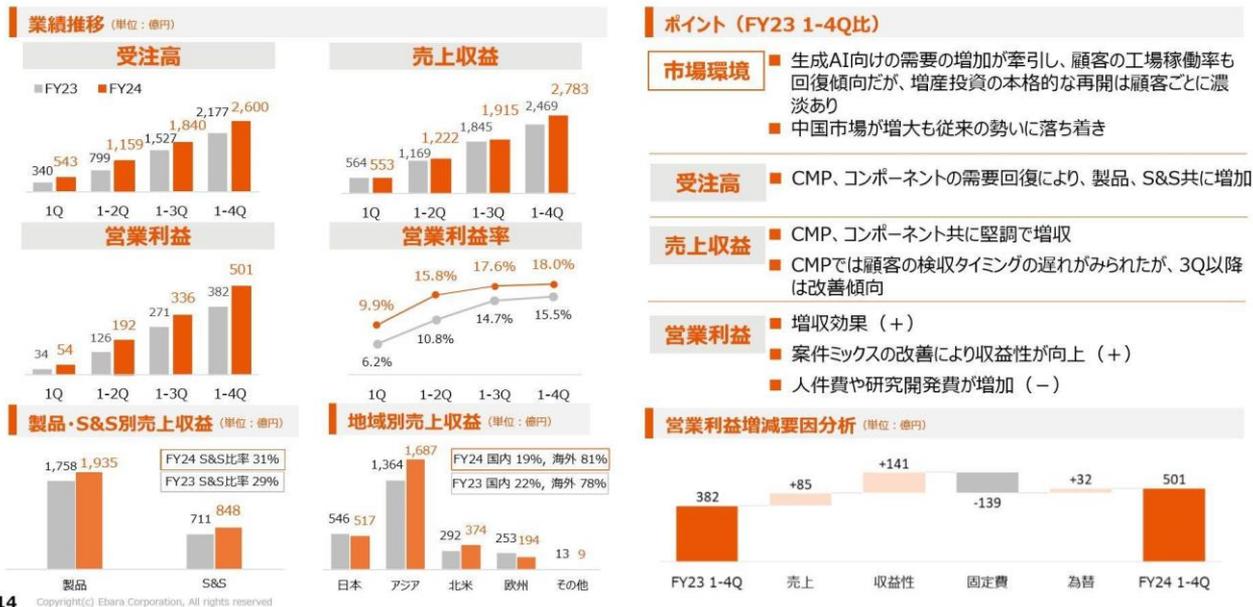
2. FY24 1-4Q セグメント別業績
環境



13 ページ目は、環境セグメントです。

受注は前期比で減少、売上、営業利益は前期比で増加となっております。2024 年度は、EPC 受注の谷間に当たり、想定範囲内ではあるものの年間の受注は前年を大きく下回りました。ゴミ処理施設延命化で、大型案件を 2 件受注したものの、金額規模が前期を下回りました。

一方で、前期の受注残から EPC、O&M とも受注残が多かったため、売上が増加して増収増益となったのが環境セグメントの全体像でございます。



14 ページ目の精密・電子セグメントです。

ここは受注、売上、営業利益、いずれも前期比では増加となっております。半導体市場は、中国市場の投資が大きかったものの、従来の勢いが少し落ち着き始めている状況です。一方で、生成AI向け需要のけん引により、グローバル大手顧客においては一部顧客の工場稼働率に改善が見られている状況が見てとれます。全体としては回復基調と言えますが、お客様の増産投資の本格的な再開は、濃淡が見られる状況が続いております。

そのような中で、当社の受注状況としましては、前期に比べてCMP、コンポーネント両市場での需要回復により、製品、サービス&サポートともに増加しております。

売上は、CMP、コンポーネントともに堅調で増収となっております。CMPは、出荷済みの製品において、お客様側での検収タイミングに遅れが見られて、出荷したものの検収が終わらず、売上が計上できない状況が続いていましたが、受け入れが順次進んできている状況です。

営業利益につきましては、案件ミックスの改善やサービス&サポート比率の上昇によって、収益性が向上し、固定費の増加をカバーして、全体としては増益となったというのが精密・電子セグメントの状態でございます。

2024年度の業績に関する説明は、以上でございます。

2. FY24 1-4Q セグメント別業績
精密・電子 業績推移 (四半期)



1. FY24 1-4Q 連結決算サマリ
2. FY24 1-4Q セグメント別業績
- 3. FY25 業績予想**
4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗
5. 補足資料

浅見: それでは浅見から、2025年度の業績予想についてご説明させていただきます。本日は当社の決算説明会にご参加いただきましてありがとうございます。

3. FY25 業績予想 連結業績



(単位：億円) 発表日(年/月/日)	1-4Q				1-2Q			
	FY24 実績	FY25 計画 25/02/14	増減	増減率	FY24 実績	FY25 計画 25/02/14	増減	増減率
	a	b	b-a	(b-a)/a	c	d	d-c	(d-c)/c
受注高	8,605	9,400	+794	+9.2%	3,996	4,570	+573	+14.3%
売上収益	8,666	9,000	+333	+3.8%	3,945	4,320	+374	+9.5%
営業利益	979	1,015	+35	+3.6%	399	420	+20	+5.1%
営業利益率	11.3%	11.3%	-	-	10.1%	9.7%	-0.4pts	-
親会社の所有者に帰属する当期利益	714	724	+9	+1.4%	292	299	+6	+2.3%
ROIC	12.2%	11.6%	-0.6pts					
ROE	15.6%	15.0%	-0.6pts					
EPS (円) *1	154.62	156.74	+2.12	+1.4%				
1株当たり年間配当金 (円) *1	55.0	56.0	+1.0					
為替レート*2								
対米ドル (円)	151.41	145.00			151.97	145.00		
対ユーロ (円)	163.80	160.00			164.30	160.00		
対人民元 (円)	21.04	20.00			21.07	20.00		

*1 2024年7月1日に1株を5株とする株式分割を実施。記載は株式分割後ベースに調整した数値

*2 為替レート：FY24は四半期毎の期中平均レート実績を単純平均した値で表記。FY25は年間想定為替レートを表記

17 ページでご説明させていただきます。まず、事業環境でございます。

世界的なインフレ、欧米の高い金利水準の継続、中国経済の減速による下振れリスクがありますが、持ち直しの動きも見られていると理解しております。一方で、トランプ政権となったアメリカの政策動向、米国と中国の対立による半導体輸出管理規制の強化、そしてウクライナや中東などの地政学リスクには、引き続き注視が必要な状況と考えております。

半導体市場は、これまで市場をけん引してきた中国顧客による需要の勢いに落ち着きが見られている一方で、一部のグローバル大手の投資回復に加えて、生成 AI 向けの半導体の需要は一層の拡大が期待されると考えております。

エネルギーセグメントにおきましては、石油・ガスのダウンストリーム市場に加えまして、LNG 市場が堅調に推移して、建築・産業セグメントにおきましてはグローバルで底堅い成長が続くと見ております。

そのような中で、2025 年の業績予想は、受注は前年と比較して、794 億円増の 9,400 億円、売上は 333 億円増加の 9,000 億円、営業利益は 35 億円増の 1,015 億円、営業利益率は 11.3%、ROIC は 11.6%、ROE は 15.0%、1 株当たりの年間配当金は 56 円を予想しております。為替のレートはこちらに記載のとおりでございます。

3. FY25 業績予想 セグメント別



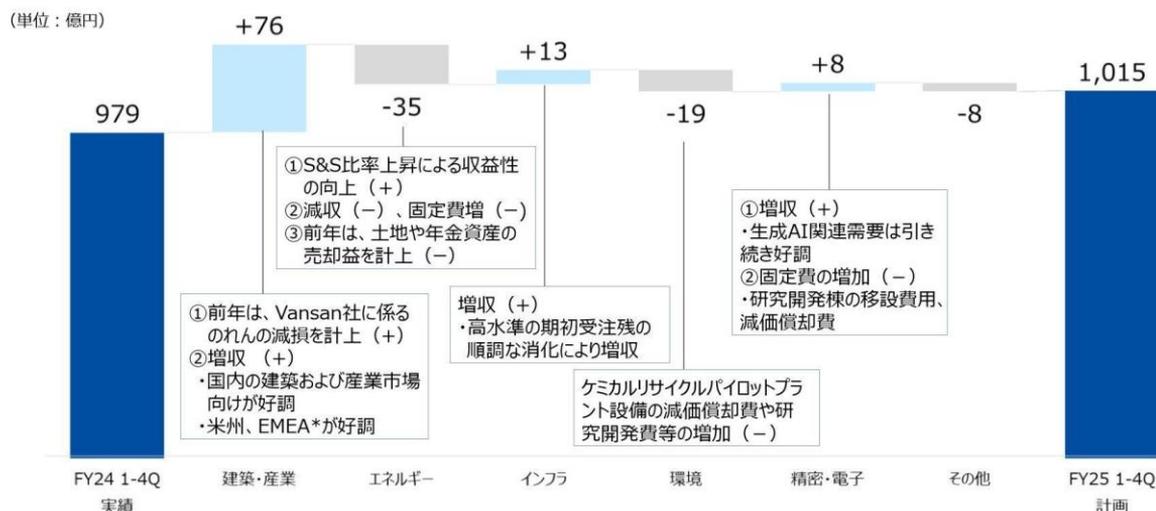
(単位：億円) 発表日(年/月/日)	1-4Q				1-2Q				
	FY24 実績	FY25 計画 25/02/14	増減	増減率	FY24 実績	FY25 計画 25/02/14	増減	増減率	
	a	b	b-a	(b-a)/a	c	d	d-c	(d-c)/c	
連結合計	受注高	8,605	9,400	+794	+9.2%	3,996	4,570	+573	+14.3%
	売上収益	8,666	9,000	+333	+3.8%	3,945	4,320	+374	+9.5%
	営業利益	979	1,015	+35	+3.6%	399	420	+20	+5.1%
	営業利益率	11.3%	11.3%	-	-	10.1%	9.7%	-0.4pts	-
建築・産業	受注高	2,444	2,550	+105	+4.3%	1,236	1,200	-36	-3.0%
	売上収益	2,381	2,500	+118	+5.0%	1,147	1,200	+52	+4.5%
	営業利益	103	180	+76	+74.1%	78	80	+1	+2.5%
	営業利益率	4.3%	7.2%	+2.9pts	+6.7%	6.8%	6.7%	-0.1pts	-0.1%
エネルギー	受注高	2,227	2,100	-127	-5.7%	955	1,100	+144	+15.1%
	売上収益	2,104	2,000	-104	-5.0%	926	970	+43	+4.7%
	営業利益	280	245	-35	-12.5%	75	85	+9	+13.3%
	営業利益率	13.3%	12.3%	-1.0pts	-7.5%	8.1%	8.8%	+0.7pts	+8.6%
インフラ	受注高	605	560	-45	-7.5%	287	270	-17	-6.0%
	売上収益	511	580	+68	+13.5%	258	335	+76	+29.7%
	営業利益	36	50	+13	+35.2%	30	45	+14	+46.0%
	営業利益率	7.2%	8.6%	+1.4pts	+19.4%	11.9%	13.4%	+1.5pts	+12.6%
環境	受注高	715	970	+254	+35.5%	352	590	+237	+67.5%
	売上収益	874	900	+25	+2.9%	383	405	+21	+5.5%
	営業利益	84	65	-19	-23.0%	36	30	-6	-16.9%
	営業利益率	9.7%	7.2%	-2.5pts	-25.8%	9.4%	7.4%	-2.0pts	-21.3%
精密・電子	受注高	2,600	3,200	+599	+23.0%	1,159	1,400	+240	+20.8%
	売上収益	2,783	3,000	+216	+7.8%	1,222	1,400	+177	+14.5%
	営業利益	501	510	+8	+1.7%	192	200	+7	+3.7%
	営業利益率	18.0%	17.0%	-1.0pts	-5.6%	15.8%	14.3%	-1.5pts	-9.5%
その他、調整	受注高	12	20	+7	+58.3%	5	10	+4	+80.0%
	売上収益	11	20	+8	+72.7%	5	10	+4	+80.0%
	営業利益	-26	-35	-8	-30.8%	-13	-20	-6	-46.2%
	営業利益率	-239.5%	-175.0%	+64.5pts	+37.1%	-227.6%	-200.0%	+27.6pts	+12.1%

18 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

18 ページになります。セグメントごとの業績予想について、主要なものをご説明させていただきます。

受注につきましては、主に精密・電子と環境セグメントが大きく増加する見込みでございます。精密・電子セグメントにおきましては、生成 AI 関連の活発な投資を見込んでいます。そのほかに、環境セグメントにおきましても、延命化や長期包括といった大型案件の受注を複数想定いたしております。売上につきましては、精密・電子セグメントにおいて、高水準の期初受注残を受けまして増収を見込んでおります。その他に建築・産業セグメントにおいて、国内、海外ともに堅調さが継続すると見ております。営業利益については、次のページでご説明させていただきます。

成長投資、基盤投資を戦略的に進めつつ、過去最高水準の営業利益額を見込む



19 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved * Europe, the Middle East, Africa

2025年の営業利益1,015億円につきまして、前年979億円からの営業利益増の増減の要因をご説明させていただきます。

こちらはセグメントごとの増減になります。増益寄与として大きいのは、建築・産業セグメントにおきまして前期に計上したVansan社に係るのれんの減損損失が今期はなくなること。そして国内、海外の堅調さによる増収によりまして、大きくプラスとなる見込みでございます。

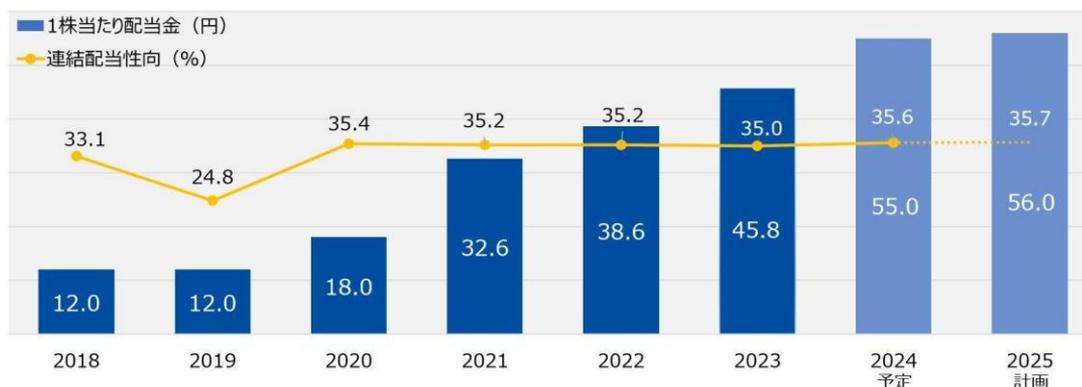
一方、エネルギーセグメントにおきましては、売上のサービス&サポートの比率が上昇することによりまして、事業の収益性は向上するのですが減収、そして固定費の増加、前期の土地や年金資産の売却益といった一過性の利益がなくなることで相対的にマイナスとなる見込みでございます。

また、精密・電子セグメントにおきましては増収となりますが、研究開発棟の移設費用、減価償却費などの発生によって微増となる見込みでございます。

3. FY24 業績予想 株主還元



- FY24の1株あたり年間配当金は55円（FY23比+9.2円）を予定
- FY25の1株あたり年間配当金は56円（FY24比+1円）を計画



配当方針

連結配当性向35%以上を目標に当該期の業績に連動して実施する方針

20 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

20 ページをご覧ください。株主還元につきましては、連結配当性向 35%以上を目標としておりまして、2024 年度の 1 株あたり年間配当金は 55 円に見直しを予定しております。これは前年比で 9.2 円増となりまして、連結配当性向は 35.6%となる見込みでございます。また 2025 年度につきましては、前年より 1 円引き上げまして 56 円を計画いたしております。



1. FY24 1-4Q 連結決算サマリ
2. FY24 1-4Q セグメント別業績
3. FY25 業績予想
- 4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗**
5. 補足資料

21 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

ここからは 2023 年 2 月に発表いたしました、中期経営計画 E-Plan2025 の 2 年目の進捗、そして最終年度となります今期の取り組みについてご説明させていただきます。

4. 中期経営計画「E-Plan2025」の進捗
E-Plan2025の位置づけ



E-Plan2022で実現した高水準の効率性・収益性以上を目指しつつ、建築・産業市場と半導体製造装置市場を中心にトップラインの成長を実現する



22 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

※ROIC計算式
NOPLAT(みなし税引後営業利益)÷投下資本(有利子負債(期首期末平均)+株主資本(期首期末平均))

E-Plan2025 は、長期ビジョン E-Vision2030 の 2030 年にありたい姿からのバックキャストと、E-Plan2022 の総括をして見えてきました課題を受けて策定したものでございます。プロダクトアウトからマーケットインの視点で取り組みを加速するために、顧客起点での価値創造をテーマといたしまして、それぞれの事業でさらなる競争力強化を進めております。

E-Plan2025 財務数値目標

- FY24は、生産設備の拡張や新製品開発に加え、経営インフラの高度化のためのシステム投資などに積極的に取り組み、投下資本は拡大したが、いずれの指標も高い水準となった
- FY25の効率性、収益性は先行投資負担があるものの引き続き高水準を維持し、中計の目標達成を目指す

		E-Plan2025				
	指標	FY22実績	FY23実績	FY24実績	FY25計画	E-Plan2025 目標
効率性	ROIC*	11.6%	12.2%	12.2%	11.6%	10%以上
	ROE	15.0%	15.7%	15.6%	15.0%	15%以上
収益性	営業利益率	10.4%	11.3%	11.3%	11.3%	10%以上
成長性	売上CAGR (売上収益)	(6,808億円)	11.5% ※FY22-23 (7,593億円)	12.8% ※FY22-24 (8,666億円)	9.8% ※FY22-25 (9,000億円)	7%以上 ※FY22-25

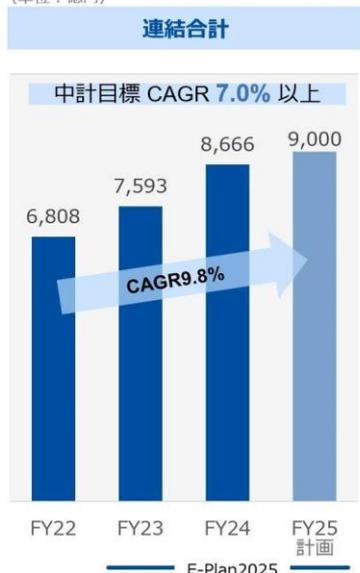
*ROIC計算式：NOPLAT(みなし税引後営業利益)÷投下資本〔有利子負債(期首期末平均)+株主資本(期首期末平均)〕

23 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

経済価値において目標としている指標は、こちらに示したとおりとなります。

最初に、財務数値目標の進捗についてご説明いたします。2024年の実績は、ROIC12.2%、ROE15.6%、営業利益率11.3%、売上CAGRは12.8%と、資本の効率性、収益性は高い水準を維持しつつ、成長性におきましても2023年を上回る水準となりました。

E-Plan2025の最終年度である2025年におきましては、期間中で継続的に実行してきた成長投資、基盤投資による減価償却費などの固定費の負担は増えてまいります。効率性、収益性、成長性の指標は、いずれにおいても中期経営計画の最終目標を上回る計画となっております。

売上収益
(単位：億円)

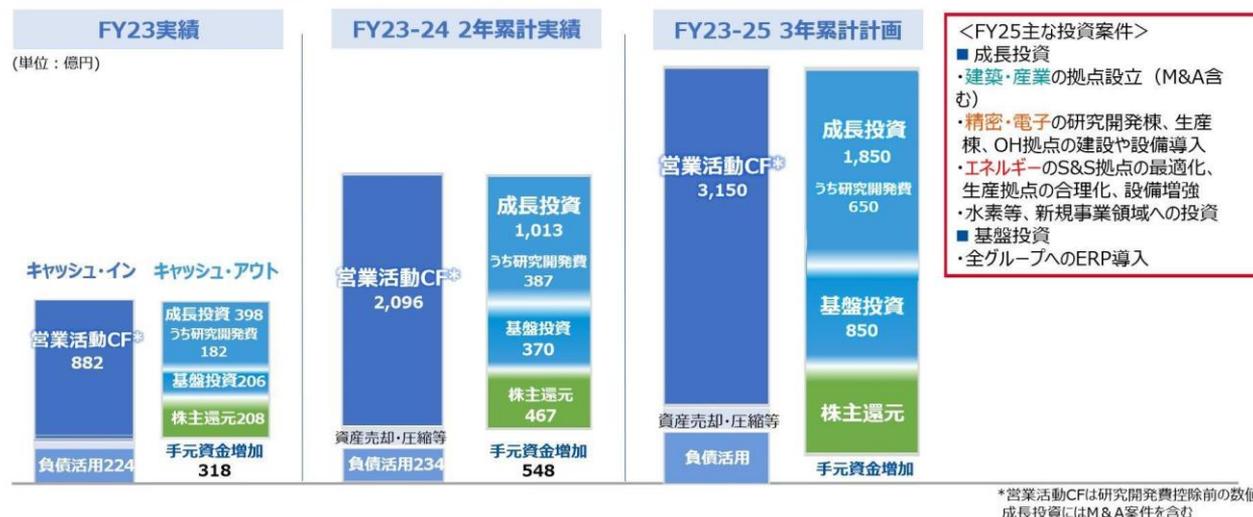
24 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

成長性の指標におきましては、売上 CAGR を設定しております。全社で 7%以上、成長事業と位置づけた建築・産業セグメントで 6%以上、精密・電子セグメントにおきましては 15%以上を目標としております。こちらに示したように、全社、建築・産業セグメントの進捗は順調でございます。一方で、精密・電子セグメントは、目標値の 15%に対して 10.5%程度に留まると見ております。計画策定時、2023 年に発表したときの想定よりも中国を除くグローバル市場の回復が遅れている一方で、中国市場が想定よりも拡大した状況と見ております。相対的に当社のシェアが低い中国市場が拡大したことによって、その他の市場よりも売上収益は中期経営計画策定時の目標を下回る見込みでございます。

一方で、2020 年から 2025 年の半導体製造装置市場の CAGR が一桁台前半程度であることを考えますと、市場の成長率以上の事業成長は実現しているといえると考えております。今後も、生成 AI 需要のけん引による市場成長を取り込むべく着実に施策を進めまして、需要に応じてまいりたいと思っております。

E-Plan2025 キャッシュアロケーション

- E-Plan2025の2年目となるFY24も、成長投資を中心に概ね計画どおりに実行
- FY25も成長分野を中心に積極的に投資。精密・電子やエネルギー関連は、将来の市場の拡大を見据えて投資を加速
- 資本効率を重視した投資と安定的な株主還元のパランスを意識



25 Copyright(c) Ebara Corporation, All rights reserved

こちらは E-Plan2025 の期間、3年間のキャッシュアロケーションの推移でございます。

真ん中のグラフが、2024年までの累計実績、一番右側がアップデートした2025年までの3カ年の累計計画となります。E-Plan2025期間中は、2030年にありたい姿の達成に向けて、各事業の競争力を強化するために成長投資、基盤投資を行っていくことを重視いたしております。2024年は、精密・電子セグメントのCMP生産棟の増設、エネルギーセグメントにおけるサービス&サポート拠点の最適化、グループ会社へのERP導入などによって成長投資額、基盤投資額をともに2023年を上回るレベルとなりました。

2025年は赤枠に示させていただいておりますように、建築・産業セグメントにおけるM&Aを含めた拠点設立、精密・電子セグメントの研究開発棟、生産棟、オーバーホール拠点の建設やそれに伴う設備導入、それからエネルギーセグメントにおけるサービス&サポート拠点の最適化などの成長投資を拡大していく計画でございます。これに加えまして、水素などの新規事業領域への投資、そして全グループへのERP導入など、全事業の競争力強化だけではなく、新たな収益の柱となる事業の立ち上げ、それらを支える経営インフラの整備など、確実に投資を実行してまいります。

E-Plan2025 進捗・成果

顧客対応力を強化する体制の整備・基盤づくりは順調に進捗。各セグメントで事業間シナジーが発現

進捗・成果

■ 各セグメントで対面市場別組織の一体化を進め、ワンストップの顧客接点やソリューション営業の展開を加速。エネルギーでは中東の石油化学案件（AMIRALプロジェクト）でコンプレッサ、タービン、カスタムポンプを一括受注。建築・産業ではS&Sの受注が拡大

■ 販売、S&S体制を強化

建築・産業



ウルグアイのポンプ販売会社を買収

エネルギー



インドネシアで新S&S拠点を移設・拡充
2024年2Qに稼働開始

■ 顧客のニーズに応える新製品を開発

建築・産業



インバータ内蔵PMモータ
搭載ポンプの販売を開始

精密・電子

新型排ガス処理装置の販売を開始



精密・電子

新製品の先端パッケージアプリケーション対応電解
めっき装置をSemicon Japan 2024で公開

■ CxO制の整備、深化

■ 国内外グループ会社へのERPシステムの導入および一部稼働開始

FY25の取り組み

精密・電子：グローバルでの増産投資や開発投資の継続

熊本工場新生産棟(K3棟)の稼働を2Qより開始予定（生産能力は1.5倍へ）

半導体製造装置開発棟の竣工

建築・産業：産業チラーや低環境負荷製品などの新製品拡販、継続的な拠点拡充（M&A含む）の検討

エネルギー：生産体制の増強、S&S拠点の最適化（アブダビ、ヒューストンの稼働開始）

26 グループ全体：ERPの導入および稼働開始、グローバル人材マネジメント基盤の構築

精密・電子



K3棟(2024年12月竣工)

精密・電子



開発棟の完成イメージ図

エネルギー



ヒューストンS&S旗艦拠点
完成イメージ図

こちらに E-Plan2025 の重点領域におきまして、2年目の進捗と成果をまとめました。

E-Plan2025 では、顧客視点での価値創造をテーマにしております。2023年1月には、対面市場別組織に移行しております。各セグメントにおきまして、顧客対応力を強化する体制の整備、基盤づくりが進んでおります。各セグメントでの対面市場別組織の一体化を進めまして、ワンストップの顧客接点やソリューション営業の展開を加速いたしました。

エネルギーセグメントにおきましては、中東の石油化学案件で、コンプレッサ、タービン、カスタムポンプを一括受注することができました。建築・産業セグメントにおきましては、冷凍機、標準ポンプ、送風機の営業を一体化することによって、各案件で製品を横断した受注が増加しました。このように対面市場別組織への移行から2年が経過して、事業間のシナジーが確実に表れてきております。

また、各事業の競争力強化のための投資を継続しております。建築・産業セグメントにおきましては、ウルグアイのポンプ販売会社を買収いたしました。エネルギーセグメントにおきましては、インドネシアをはじめ新サービス&サポートの拠点を拡充いたしております。

加えまして、製品についても顧客のニーズに応える新製品の開発を建築・産業セグメント、精密・電子セグメントでも進めております。2025年に向けましても、大きな戦略の方向性や取り組みは変わらず、精密・電子セグメントにおきましては、グローバルでの生産投資、研究開発への投資を継続いたします。また、建築・産業セグメントにおきましては、産業チラーをはじめとした新製品

の拡販、M&Aを含めた継続的な拠点の拡充を検討してまいります。エネルギーセグメントにおきましても、生産体制の増強やサービス&サポート拠点の最適化を進めてまいります。

4.中期経営計画「E-Plan2025」の進捗

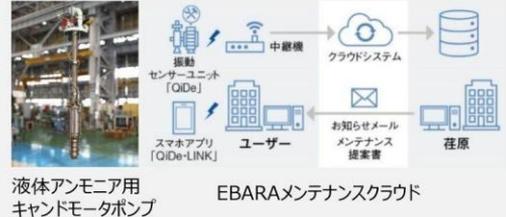
E-Plan2025 進捗・成果



既存技術間のシナジーと社内外との連携により、新たなビジネス機会を創出

進捗・成果

- 高付加価値のソリューション開発を推進
- 新エネルギー向け（水素、地熱、SAFなど）にコンプレッサ、カスタムポンプを受注
- 燃料アンモニア転換実証を行う火力発電所において、液体アンモニア用キャンドポンプの試験運転に成功
- 世界初となる水素関連製品の開発、液体水素ポンプの実液試験設備を完備した世界初の実スケール商用製品試験・開発センターの着工
- ソリューション事業（EBARAメンテナンスクラウド）を活用したS&Sの収益貢献



FY25の取り組み

- ソリューション提供型ビジネス開発の加速および収益化
- エネルギー：S&S領域での新ビジネス開発
- 水素、アンモニア、CCUS、SAFなど、エネルギー転換、カーボンニュートラルの実現に貢献するビジネスの推進
- 液体水素ポンプの初受注に向けた営業活動
- 水素インフラ関連機器の商用製品試験・開発センターの稼働
- ケミカルリサイクルパイロットプラント設備の稼働
- 陸上養殖、構造たんぱく質、培養肉関連など新規事業に対する投資の継続



商用製品試験・開発センター外観イメージ



液体水素ポンプイメージ

27 Copyright(c) Ebara Corporation. All rights reserved

次に、既存技術間のシナジーと社内外との連携による、新たなビジネス機会の創出の取り組みについてご説明させていただきます。

成果としては水素、地熱、SAF(Sustainable Aviation Fuel)、アンモニアをはじめとした新エネルギー分野向けの製品について、受注、試験運転につなげることができました。特に水素関連分野につきまちはSBU(Strategic Business Unit)という事業体の形で運営を行っておりまして、世界初となる製品の開発と実スケール商用製品試験・開発センターの建設を進めております。2025年は、建築・産業セグメントにおけるメンテナンスクラウド、エネルギーセグメントにおけるサービス&サポート領域での新ビジネスなど、ソリューション提供型ビジネス開発の加速と収益化に取り組んでまいります。

また、水素をはじめとした新エネルギー関連のビジネス推進、営業活動を進めてまいります。設備関連では、水素関連製品の試験・開発センターで2025年中に一部の試験を開始する予定でございます。竣工は2026年を予定しております。さらに環境セグメントでは、ケミカルリサイクルのパイロットプラントの稼働が予定されております。加えまして陸上養殖、構造たんぱく質、培養肉といった新規事業への投資も継続してまいります。

Appendix: E-Plan2025 セグメント別進捗

- FY24は一過性の減損損失のあった建築・産業を除き、営業利益率は目標値を超過
- FY25は精密・電子、エネルギー、環境の営業利益率は前期比では下がるものの、中計の目標達成に向けて計画を遂行

位置づけ	セグメント	FY24の主な成果	E-Plan2025 財務数値目標 (営業利益率)			E-Plan2025 目標
			FY23実績	FY24実績	FY25計画	
成長事業	建築・産業	<ul style="list-style-type: none"> ■ ウルグアイに販売拠点を設立 ■ EBARAメンテナンスクラウドを活用したサービスで、S&Sの受注を拡大 ■ インバータ内蔵モータ搭載の新製品を販売開始 	7.1%	4.3%	7.2%	7.0% 以上
	精密・電子	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国市場や生成AI関連向け需要の取り込み ■ 熊本工場のK3棟が竣工 ■ 2ナノ半導体や新たな半導体製造技術に対応する製品および技術の開発、顧客での評価を推進 	15.5%	18.0%	17.0%	17.0% 以上
成長事業への 転換を図る事業	エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワンストップの営業体制により大型石油化学案件でコンプレッサ・蒸気タービン・カスタムポンプを同時受注 ■ 生産体制およびS&S拠点最適化の進展 ■ 新エネルギー向け（水素、地熱、SAFなど）にコンプレッサ、カスタムポンプを受注 	13.4%	13.3%	12.3%	12.0% 以上
基盤事業 (安定的収益確保)	インフラ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高い施工能力と技術提案が評価され国内の受注が拡大、排水機場の遠隔監視設備案件も複数受注 ■ 北米、東南アジアで水インフラ向け大型案件を受注 	9.2%	7.2%	8.6%	6.0% 以上
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大型延命化案件2件を受注、長期的な運転・維持管理を目指す ■ ケミカルリサイクルの実用化に向けたパイロットプラントの建設は順調 	9.7%	9.7%	7.2%	7.0% 以上

28

こちらが最後のスライドになります。セグメント別に E-Plan2025 の 2 年目の主な成果と営業利益率の見通しをまとめてあります。

競争力強化のための投資は確実に実行しておりまして、2025 年はさらに加速させてまいります。それを前提にいたしましても営業利益率は高水準を維持して、最終年度の目標達成に向けて施策を実行してまいります。以上、中期経営計画 E-Plan2025 の進捗についてご説明いたしました。

私からのご説明は以上になります。ご清聴ありがとうございました。